

## 巻 頭 言



会長 大西 英之

世界は今も混沌としている。ロシアのウクライナへの侵攻は収まらず和平交渉も決裂したままだ。イスラエルのガザ侵攻もさらに激しくなり悲惨な状態が続いている。中南米の貧民がアメリカに押し寄せてこれも大きな問題となっている。アメリカの製造業は衰退の道を進み、それに従事していた中間層の人々の職が奪われ貧困層へと落ちてきているという。IT 産業とウォール街の経済活動以外は空洞化し、富裕層と貧困層との2極化が止まるところを知らず進んでいる。トランプ大統領はアメリカに製造業を復活させるとの大号令で高関税政策を打ち出した。中国には 145%の関税を打ち出した。交渉の結果 40%程度に落ち着きそうだが、日本への関税は 90 日後に決定するという。1930 年にスモート・ホリー法がアメリカで自国産業の保護という理由で制定されたが、他国の報復措置も重なり、世界恐慌が深刻化したと言われている。この教訓から世界は自由貿易へと舵を切り WTO のもと、最近では APEC のリーダーとして日本は活躍していた時だけに何とかしてこの難局をのりこえて欲しい。トランプ大統領は戦争解決にもディールを持ち出しているが解決の道は遠のくばかりだ。アメリカ帝国の凋落が目に見えてきている。アメリカの圧倒的軍事力に裏打ちされた自由と民主主義が崩壊しようとしている。EU や日本などの同盟国間にもきしみが起き始めている。高関税政策を打ち出しても、もう職人はいなく、すぐにアメリカの製造業が復活するはずはないのに。今こそ日本がリーダーシップを発揮して世界の経済や自由と民主主義を唱え、戦争解決に進んでもらいたいと思っているが今の内閣ではどうなることか先が見通せない。

コロナ感染状況はほぼ開け、病院の活動状況はほぼ正常に戻ってきた。開院から 24 年経ち外壁工事、病棟改築、トイレ改修工事もほぼ終え 60 床の回復期病床も稼働している。後期高齢者は増加が見込まれ、これらの人たちの介護が問題となって来ている。急性期治療だけをやっていることでは済まなくなってきた。もう私の時代ではないが、今後 10 年、20 年先のことを考え地域医療に貢献したいと思っているが、その為にはやはり急性期から回復への切れ目のない治療とその後の受け入れ体制も強化せねばならない。

2023 年の報告では 69%の病院で医業利益が赤字だとのことである。米の価格をはじめ急に諸物価が高騰しそれに対応するため今春の労働者賃金は増額された。しかし、多くの病院ではその対応は厳しい。赤字体制の改善には医療費の抑制政策が続いている限り根本的には改善さるはずはない。むしろ政府は急性期病床数を削減し、国全体の医療費を抑制すると言う。自費の美容医療は飛躍的に収益を増大させているのに反し、保健医療は 20 年以上抑制されたままである。金が無ければ医療が受けられない時代が来ようとしている。戦後、日本が世界に先駆けて作ってきた保健医療体制、WHO が世界一の医療提供体制と評価した制度、保険証さえあれば全国どこでも迅速に最先端の医療が安価で受けられる制度、が崩壊しようとしている。結局その付けが来るのは弱者である。多くの国民には医療制度崩壊の危機が迫っていることを知ってもらいたいと思っている。

(2025 年春 会長室にて)